

環境保全協定に基づく「環境保全報告書」

令和5年度環境保全報告書

ナブテスコ株式会社西神工場

①当該年度の重点取組目標・計画の実施状況

ア. 地球温暖化対策【温室効果ガスの抑制】

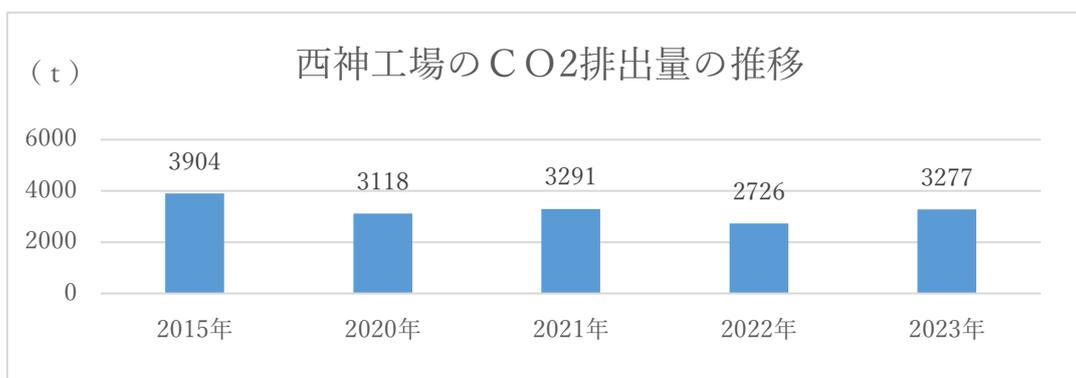
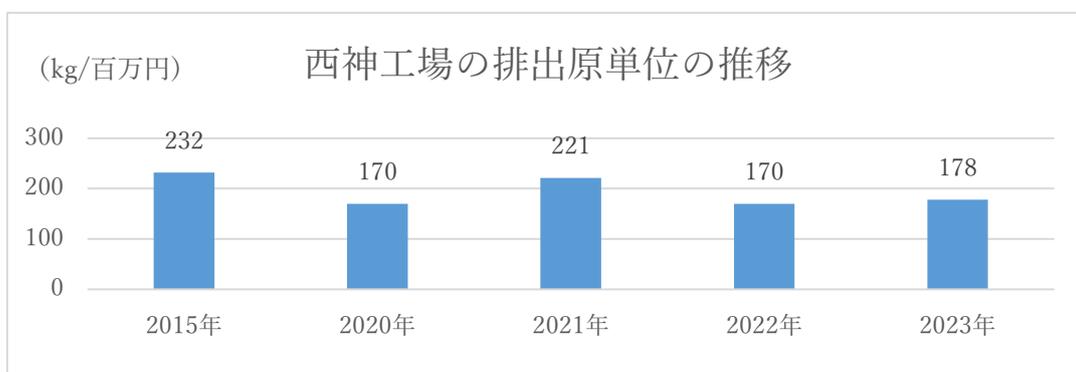
CO₂について、燃料および電力の省エネルギーを行い、排出量低減に努めている。

当社では、長期目標 2015 年基準 63.0%絶対量削減(2030 年度)を定め、その達成のために、単年度目標を定めて活動している。2023 年度のナブテスコ全社単年度目標は 2015 年度基準 18.9%であるが、生産計画および省エネ活動を合わせて 35.1%削減の 2,533(ton)を設定した。

実績について、2023 年度の CO₂ 排出量は購入電力の CO₂ 排出係数が 20%増加により目標値 2,533(ton)を 744(ton)上回る 3,277(ton)で目標値より 29.4%増加した。

工場CO₂排出状況

項目		2015年 (基準年)	2020年	2021年	2022年	今年度 2023年
生産高	(百万円)	16,833	18,348	14,869	16,076	18,449
工場 CO ₂ 排出量	LPG (t)	201	202	206	194	196
	ガソリン (t)	7	1	0	0	0
	軽油 (t)	3	0	0	0	0
	メタン (t)	0	2	3	2	2
	電力購入 (t)	3,693	2,913	3,082	2,529	3,079
	合計 (t)	3,904	3,118	3,291	2,726	3,277
工場排出原単位 (kg/百万円)		232	170	221	170	178



イ. 省エネルギーの推進

西神工場では、エネルギーとして電力、LPG、ガソリン、軽油を使用しておりエネルギー毎に削減目標を立て省エネルギーとなるよう活動している。電力は建物の断熱強化、設備・機器の更新および損失と運用の改善を行って省エネルギーを推進している。電力削減の取組として工場の屋根に太陽光パネルを乗せて太陽光発電を行うよう進めている。LPGのほとんどを製品の表面処理液の温度上昇に使用しており、処理量の増減によりLPGの使用量も比例するので生産量の増減でLPGの削減の方法を見いだせていない。ガソリンおよび軽油は構内での運搬車両および建設機械の燃料として使用しており、現状の車両の運用を行う限り少量の使用は継続する。

②公害防止対策に係る報告

ア. 目標達成状況と目標達成のために講じた措置・対策

目 標 項 目	目標達成状況	目標達成のために講じた措置・対策
防大 止気 対汚 策染	「大気汚染防止法」、「大気汚染防止法第4条第1項の排出基準に関する条例(兵庫県条例)」及び「環境の保全と創造に関する条例(兵庫県条例)」等の法令の規定を遵守	遵守できた。 定期的な点検を実施した。
水 質 汚 濁 防 止 対 策	(公共用水域に排出する場合)	
	「水質汚濁防止法」、「水質汚濁防止法第3条第1項の排水基準に関する条例(兵庫県条例)」及び「環境の保全と創造に関する条例(兵庫県条例)」等の法令の規定を遵守する。	遵守できた。 雨水等の排水溝への油漏れ等なきよう周知対応実施した。
	(公共下水道を使用する場合)	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画書別表2に記載する排出水の水質に係る管理目標値を遵守する。 ・ 排出規制がない有害物質について、可能な限り使用量及び排出量を把握し、排出削減に努める。 ・ 有害物質等による地下水汚染の未然防止及び拡散防止に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水素イオン濃度(pH)6.8~7.7(5< pH≤9)達成 ・ ノルマルヘキサン抽出物質。動植物油脂類含有量排除基準 150mg/L以下で分析結果は最大 50mg/Lで達成 ・ ノルマルヘキサン抽出物質の鉱油類含有排除基準 5mg/L に対し最大 3.3mg/Lで達成
		排水基準値内処理を維持した。

水質汚濁防止対策	(有害物質を使用している場合)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・排出規制がない有害物質について、可能な限り使用量及び排出量を把握し、排出削減に努める。 ・有害物質等による地下水汚染の未然防止及び拡散防止に努める。 	有害物質の削減ができた。	有機溶剤を有機溶剤中毒予防規則非該当の有害物質非含有の製品を継続使用。
騒音防止対策	「騒音規制法」及び「環境の保全と創造に関する条例(兵庫県条例)」に定める基準を遵守する。	敷地境界線での騒音を定期的に測定。第1種住居地域に接する敷地境界線南側バッファゾーンでは、朝の時刻に、換気扇を運転すると、第3種区域の規制値を越えていたので対策を実施した。	南側バッファゾーン直近の経年劣化した換気扇の運転音増加に対して、騒音を低下させるために換気扇の更新を行い、規制値以下にした。
振動防止対策	「振動規制法」及び「環境の保全と創造に関する条例(兵庫県条例)」に定める基準を遵守する。	申請漏れしていた圧縮機が判明し、現状に合わせて修正した特定施設設置届を届出した。	届出漏れしていた圧縮機を含めて、新設圧縮機の設備設置前にメーカーの振動測定値で敷地境界線での振動予測値が規制値を下回ることを確認し設置した。
悪臭防止対策	「悪臭防止法」及び「環境の保全と創造に関する条例(兵庫県条例)」に定める基準を遵守する。さらに、神戸市悪臭防止暫定指導細目の目標値を遵守する。	順守できた。	臭気の強いものを扱うときは緩和するように対応してから、運用する体制をとっている。
土壌汚染防止対策	(特定有害物質(**))を使用している場合)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・「土壌汚染対策法」及び「産業廃棄物等の不適正な処理の防止に関する条例」等の法令の規定を遵守する。 ・特定有害物質等による土壌汚染の未然防止・拡散防止に努める。 ・汚染土壌を搬出する場合は適正処理に努める。 	順守できた。	土壌汚染につながる油漏洩の対応を順守できるよう、工場規定で油漏洩時に油の広がりを抑える緊急油液処理キットを設置している各置場においての使用状況を確認し、必要なものの在庫はあることを確認した。
産業廃棄物対策	<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物の処理及び清掃に関する法律等の法令の規制を遵守し、廃棄物の適正処理を行う。 ・廃棄物の発生量を抑制するとともに、再利用を促進する。 	順守できた。	木くずをリサイクル処理する処分業者への排出準備をすすめた。

イ. 令和5年度 排出水の汚濁状態測定結果

排水口名 : 下水排水口									
項目	管理目標値	測定値		全測定回数	目標した測定回数	目標値達成判定	法令基準達成判定		
		最大 (pHのみ 最小～最大)	平均						
法令排水基準設定項目 (生活環境項目)	水素イオン濃度 (pH)	5 を越え 9 未満	6.8～7.7	7.2	50	0	○	○	
	ノルマルヘキサン抽出物質 含有量 (動植物油脂類含有量)	150mg / ℓ 以下	50	6.3	50	0	○	○	
	ノルマルヘキサン抽出物質 含有量 (鉱油類含有量)	5mg / ℓ 以下	3.3	0.8	50	0	○	○	

単位は pH を除き、mg / ℓ ND : 定量下限値以下
○ 達成 × 未達成

③地球温暖化対策に係る報告

ア. 今年度における電気・燃料等の使用量、温室効果ガス排出量

活動の区分	燃料・焼却物等の種類	使用量等	単位	単位発熱量 (MJ)	排出係数	排出量	温暖化係数	合計(CO ₂ 換算)
					kg-CO ₂ /MJ	kg-CO ₂	CO ₂	
燃料の使用	軽油	0	ℓ	37.7	0.0686	0	1	0
	ガソリン	200	ℓ	34.6	0.0671	464	1	464
	LPG	65,504	kg	50.8	0.0590	196,329	1	196,329
	メタン	910	Nm ³	43.5	0.0510	2,019	1	2,019
電気事業者から供給された電気の使用	一般電気事業者	8,551,745	kWh	—	0.360 kg-CO ₂ /kWh	3,078,628	1	3,078,628
合計			MJ			3,277,440	1	3,277,440

イ. 当該年度の計画達成状況

温室効果ガス	削減目標		排出量		削減率 (%)	
	今年度	2030年度	基準年度 (2015年度)	今年度	今年度	2030年度
二酸化炭素	2,533	1,445	3,904	3,277	-29.4	-126.8
メタン						
一酸化二窒素						
HFC						
PFC						
六フッ化硫黄						
合計	2,533	1,445	3,904	3,277	-29.4	-126.8

ウ. 目標達成のために講じた措置・対策の達成状況

	分野	項目	細目	目標	実施状況
1	再生可能エネルギーによる発電	太陽光発電	設置場所およびシステムの検討	103 千 k W h	運用まで進まず0
2	機器更新	空調機の更新、変圧器更新、照明LED化		41 千 k W h	32 千 k W h
3	機器内要素機器更新	空気圧縮機台数制御システム更新、空調機ダクト設置		14 千 k W h	52 千 k W h
4	損失改善	エア漏れ改善、待機電力	エア漏れ検知器で確認	219 千 k W h	308 千 k W h
5	運用改善	生産時間短縮		14 千 k W h	12 千 k W h

④公害防止対策、地球温暖化対策以外の環境保全活動に係る報告

今年度の環境保全活動に係る具体的実施内容

	分野	項目	細目	目標	実施状況
1	事業所等での節水	節水	上水道の蛇口水量の最適化	使用量2022年度以下	井戸水配管破裂による漏洩で使用量は昨年より増加
2	事業所等での廃棄物の適正処理・減量	分別回収の高度化	廃組立品の分解	徹底	分解可能品の紹介による分別高度化啓蒙
3	事業所等での再生製品等使用	グリーン購入の実施	再生品有無の確認	徹底	安価な場合選択
4	環境負荷の少ない資源、材料、燃料の選択	廃棄の際の環境影響を配慮した材料の選定	設計審査で確認	徹底	有害物質を避ける取組実施中
5	自動車対策	エコドライブ・アイドリングストップの推進	啓蒙資料配布	徹底	少数継続するものあり
6	特定フロン等使用量の削減	設備更新時、特定フロン使用設備の廃却		徹底	フロン回収処理のできる会社にて処分実施
7	環境に配慮した施設	光害の抑制	外灯照明の向き最適化	夜間照明の抑制	変更した場所なし
8	従業員教育	環境自覚教育	新入社員・派遣	2回/年	3月と9月実施
9	地域社会への参画	敷地境界線付近の樹木剪定	自治会からの連絡等の対応	定期的実施	敷地境界線フェンスを越える樹木は順次伐採
10	環境管理システムの充実	ISO14001-2015年度版とISO45001-2018年度版との統合による効率化		システム化	工場規定の統合
11	プラスチックに係る資源循環の促進	排出されるプラを分別しリサイクル業者へ排出		廃プラの1%リサイクル	少量梱包材を回収するBOXを設置